

笛

今年成人の4人が応援



成人祭に出席するために帰省していた4人の女性が、笛で参加してくれました。彼女たちが盆踊りの笛を練習していたのは小学生の頃と言います。懐かしい盆踊りに、久しぶりの笛で参加した皆さんに、お話を伺いました。

Q 盆踊りの笛は何年ぶり？

(斉・乳) 小学校まではやってました。一昨年盆踊りが復活してからも参加しています。

Q 奈・石 小学校以来9年ぶり？

(奈・石) 小学校以来9年ぶりです。Q 久しぶりの演奏ですが、覚えていますか？

(斉・奈) 感覚では覚えているけれど、なかなか音が出ません。

Q 何とかが大丈夫でしょう。

(乳) 音を聞いて、思い出しながらやります。

Q 音を出すのは難しいですか？

(全員) 難しいですね。

Q 5種類の笛があるんですね？

(斉・奈) 完璧に吹けるのは、踊りの笛(笑)。上りと、寄せは、太鼓と一緒に音を聞いていると思ひ出します。

Q 小学校以来でも、すぐに思い出せますか？

(奈) 感覚的に思い出します。

Q 乳)あの頃に覚えたのは体が覚えていてというか、音を聞くと思い出しますね。

(乳) あのと覚えたのは体が覚えていてというか、音を聞くと思い出しますね。

Q ハタギ踊りを踊ることもありますか？

(全員) 小さい頃は、両親と一緒に来て踊っていました。

この地を愛する人々が伝えてきた文化です

扇田民芸振興会
会長 明石 萬助



扇田民芸振興会の活動が今年50年目を迎えました。この間、何度となく消えかかったハタギ踊りの火を燃え上ながら今年も会長自ら、先頭でハタギ踊りを披露。この場をお借りして御礼申し上げます。

多くの民俗芸能がそうであるように、扇田盆踊りはこの地に根付いた土着の文化です。この地に住む人が、この地を愛して伝えてきたものです。こうした思いが若い世代になかなか伝わらないのは残念ですが、これも時代なのかもしれません。

復活した盆踊りに、少しでも若い人が来てくれるのは、私たちが長い間続けてきた講習会などの成果と、うれしく思っています。笛や太鼓も、何とか次の世代へと受け継がれて欲しいものです。

今は、肝心の踊り手が心配されています。「ハタギ踊り」は各町内の婦人会が、伝統の浴衣で踊ってくれたものですが、少なくなりました。幸い、扇田小学校の運動会や保育園の夏祭りなどでは、子供たちと一緒にたくさんの父母が踊ってくれています。皆さん、来年の盆踊りにはお誘い合わせのうえご参加ください。お待ちしております。

Q 今回は、何か特別の思いがあるの参加ですか？

(斉) 成人祭に出席するために帰って来ていましたから。

(奈・石) 盆踊りあるよって声をかけてもらったから。

Q 皆さんのふるさと観・お盆のイメージは？

(斉) 花火があって、次は盆踊りだなくという感じ。この時期になると戻って来たいなあという気持ちになります。

(奈) 花火は大館の花火ですね。

(石) 中学時代、盆踊りがお休みになったときは、さみしい気がしたのを覚えています。

Q 若い後継者が少ないんですが、どう思いますか？

(奈) 私たちは、笛や太鼓がカッコイイと思って始めました。

(斉) 正装して、本番の太鼓や笛



この姿に憧れて始めた子供たちがいます

取材を終えて みんなの力で守り続けることが大事

夏の盆踊りは、その地域に生活する人々にとって楽しみの一つだと思ひます。季節の行事を楽しんで、ひとり一人が思い出を残す。大人も子供も楽しめる行事が今後も続くように、扇田地区に住む一人として見守り続けていきたいと思ひています。

比内地域には、扇田以外にも「中野七夕」、「金山七夕」など、お盆に行われる行事があり、い

ずれも地域の皆さんが守り続けています。後継者不足という課題はあると思ひますが、頑張つて守り伝えていきます。

一度無くなった行事を、再び立ち上げるのは、新しく始める以上に大変なことです。地道な活動でも地域に住むみんなの力で守り続けることが大切だと、今回の取材を通じて、改めて考えさせられました。